

米山奨学生レクリエーション報告

米山奨学委員会 委員

島井 宏子 (大阪北梅田RC)

日 時:2012年10月14日(日)

場 所:宝塚大劇場・エスプリホール

参加者:高島 凱夫G、米山奨学会副理事長 近藤 雅臣PG、泉 博朗GN、地区米山委員 10名、米山奨学生 24名、各クラブカウンセラー・ロータリアン・ご家族 34名、米山学友会 10名、青少年交換来日学生 5名、参加者計86名

2012年度の米山奨学生レクリエーションは、10月14日(日)、秋晴れの中、恒例の宝塚大劇場にて開催されました。上記の出席者は一応に観劇で感動を得、懇親会では笑いの絶えない交流を楽しみ、有意義な一日を過ごすことが出来ました。

当日は宝塚歌劇団 雪組公演、

第1部はグランドステージ“Jin 一仁一”

第2部はショー・ファンタジー“Gold Spark”

11時開演、30分の休憩を挟んで2時に終演、特に“Jin”は、現代から江戸末期にタイムスリップする医師の活躍から『人生の輝きはその長さではなく、どれほど懸命に生きたかである』というテーマがちりばめられ、奨学生や青少年交換学生の若者にも共感する所が大いにあったようです。

その興奮も冷めやらぬ面持ちで、エスプリホールに会場を移して、懇親会が開かれました。司会進行は河内委員が担当させて頂き、来賓・地区委員の紹介で始まりました。まず、田中地区米山奨学委員長より、平素からの米山事業へのご協力への謝辞と、本日の機会をとらえてより友好を温めて頂きたい旨の挨拶をさせて頂きました。

続いて、高島Gより、「今年度のRIテーマ『奉仕を通じて平和を』を米山事業に当てはめて、①奨学生には、たくさん日本の友人を作って欲しい。②ロータリアンには、奨学生を立派な学生に育てて欲しい。③5月17・18日に開催予定の『世界平和フォーラム広島』に参加して、若者と平和について話し合っ欲しい。そして本日の企画を通して、友情と懇親を深めて頂きたい」とのご挨拶を戴きました。

次に、米山奨学会副理事長の近藤PGより、「様々な友情の花が咲きますように」との乾杯のご発声で、遅いビュッフェ形式の昼食の宴が始まりました。

食事の合間に奨学生が一人ひとり壇上に立ち、近況報告・歌劇の感想・日頃思う事を交えた自己紹介で盛り上がりました。「米山の精神を知らない日本人も多い。外国人だけでなく日本人にもこの素晴らしい精神を広めて行きましょう」「卒論・就活と大変な時期だが、米山を通じ



て得た貴重な体験やカウンセラーのおかげで頑張れている」「宝塚ファンの気持ちが理解出来た。男役がカッコいい」「久しぶりに帰郷して農村の寂れた姿が悲しかった」「クラブの方々やミャンマーや東北でボランティア活動に参加。今後、このような活動の体験を、職業を通じて米山精神を持って活かしたい」等、この半年間の頼もしい成長ぶりに拍手と笑いが絶えないスピーチタイムでした。

最後には、青少年交換来日学生も自己紹介。たどたどしい日本語ながら、日本の生活を楽しめている様子がほほえましくもありました。

続いて、学友会(関西)の張会長より、「今日の歌劇を観て、自分が150年前にタイムスリップしたとしたら、どんな職業奉仕が出来るのかを考えた時、反対に150年前から人々の努力の積み重ねが今日であると感じた。奨学生にも150年前の坂本龍馬とは交流できなくても、今こうしてロータリアンと交流できたことで人生の輝きを増し、学友会のパワーになって欲しい」との力強い呼びかけの挨拶がありました。

講評として、泉GNより、「宝塚は理想の男性を、歌舞伎は理想の女性を演じる、共に日本文化の一つの形であり、これからも日本文化・伝統を理解する機会を持って欲しい」とのお言葉を戴きました。

最後に、西谷副委員長より閉会の挨拶をさせて頂き、『手に手つないで』を一つの大きな輪になって歌い、記念写真を撮影して、歌劇の夢の世界の楽しい思い出を胸に5時に散会となりました。